

# I 種 苗 生 産

## 1 方 法

今年度の親魚は前年度使用した19尾（年令、雌雄比不明、平均体重 3.76 kg）に、昭和59年に本都近海で採捕し養成を続けていた14尾（年令、雌雄比不明、平均体重 2.45 kg）を加え合計33尾となった。採卵並びに飼育水槽への収容はほぼ従来通りである。

飼育水槽は室内円型水槽（飼育水量50 $m^3$ ）を延べ3面と、上屋付屋外水槽（飼育水量45 $m^3$ ）を延べ6面の合計9面を使用した。

使用した餌料と投与期間を図1に示した。初期餌料はS型ワムシをベースに従来通りのマガキ幼生に加え人工プランクトンも使用した。S型ワムシの二次培養はクロレラと油脂コウボの併用とした。また4区以降はワムシの培養が不調となったためアルテミア、冷凍ワムシを使用した。飼育水は、4区までは日令10日頃から昼間流水を開始し、20日頃から終日流水とした。6区以降はワムシ培養不調となったため流水開始が大幅に遅れ日令30日前後となった。

通気方法は室内円型水槽はエアーストン4個を使用し、その他は前年度とほぼ同様である。

前年度異形魚の出現率が非常に高かった（55～71%）ため今年度は飼育初期の飼育水表面の汚れを極力除去した。底掃除その他はほぼ前年度同様である。

## 2 結果及び考察

種苗生産結果を表1に示した。

18～24mmサイズの種苗を 128,700 尾生産しそのうち 128,300 尾を中間育成に供した。

初期餌料別の日令10～12日までの生残率を図2に示した。初期餌料として今年度初めて人工プランクトンを極くわずかであるが使用した。初期の生残率はマガキ幼生投与区に劣るものの今後更に投与量、投与期間について検討を加える必要がある。

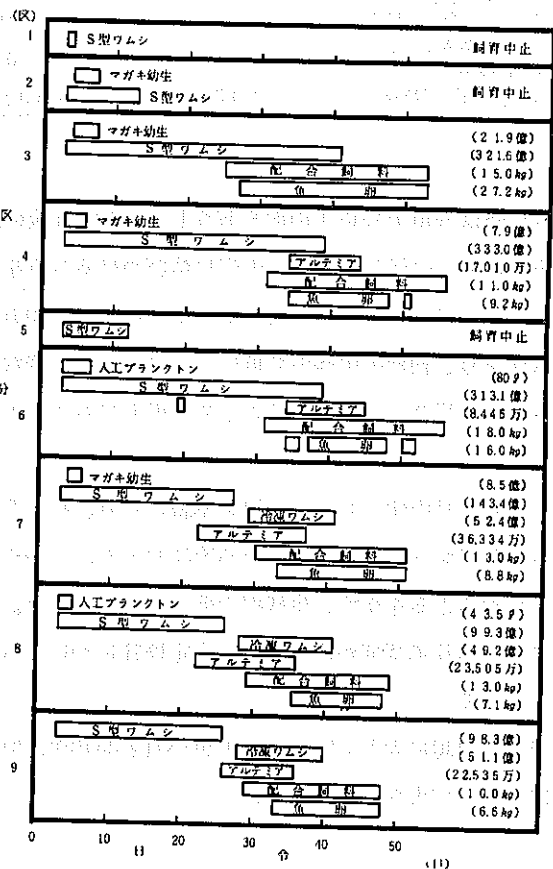


図1 餌料と投与期間（総投与量）